

標十五句

松岡隆子選

鶏小屋の屋根に鶏厄日かな
蔓引くや空にとどまる烏瓜
昨日より今朝細やかに鯛雲
色鳥の来て水門の開く時刻
木犀のうるむ匂ひに包まるる
身に入むや互みに聞いて日々のこと
冷やかに病院よりの電話鳴る
身に入むや医療同意の署名多々
先生の眠れる山を秋の蝶
法師蝉いつとき高くそれつきり
身ぬちまで堰音に濡れ川床料理
法華経の墨痕の香も十三夜
車麩を浸し何やら冬めける
着せかける上着にこぼれ木の葉髪
秋風と歩けば何処までも行ける

川上昌子
峰岸よし子
渡辺あつ子
松原ふみ子
鈴木綾
染谷晴子
加藤暢一
小野瑞枝
下平直子
小山陽子
植草京子
東條恭子
石崎章子
富樫郁子
長束フミ子